

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
総合研究報告書

HAM 及び HTLV-1 関連希少難治性炎症性疾患の実態調査に基づく診療指針
作成と診療基盤の構築をめざした政策研究

研究代表者 出雲 周二

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科付属
難治ウイルス病態制御研究センター 教授

研究要旨：HTLV-1 は HAM やぶどう膜炎の外、様々な難治性炎症性疾患との関連が示唆されているが、その実態は不明である。本研究ではこれらの難治性炎症性疾患を「HTLV-1 感染が引き起こす難治性炎症」として包括的に捕らえ、HAM の長期予後に関する後方視調査と治療の検証、非 HAM HTLV-1 関連希少炎症性疾患の後方視的、横断的検索、HTLV-1 陽性難病患者の診療実態調査を行い、各疾患に共通の問題点とその対策を検討し、HTLV-1 感染症総合対策の基盤を整備することを目的としている。本研究の成果として、HAM については、患者データベースの解析や「HAM ねっと」を活用した疫学調査により得られた結果を踏まえ、全国の HAM の臨床家・研究者 12 名で HAM 診療マニュアル改訂版の策定委員会を組織して、「HAM 診療マニュアル改訂版」を発行、全国の HAM 診療施設に送付した。また、重症度分類については「Osame の運動機能障害度」が HAM の進行や治療による改善をよく反映し、海外でも認知度が高いため、当面これをもちいることが妥当であると判断された。非 HAM HTLV-1 関連希少炎症性疾患に関して、HTLV-1 (関連)ぶどう膜炎症例の臨床データをもとに「HTLV-1 関連ぶどう膜炎の診療の手引き」を作成した。また、シェーグレン症候群における抗 HTLV-1 抗体陽性患者の特徴と予後を後方視的に解析し、論文として報告、「HTLV-1 陽性シェーグレン症候群の診療ガイドライン」を作成した。炎症性筋疾患についても多発性筋炎、皮膚筋炎、封入体筋炎で高率に HTLV-1 陽性であること、HAM 患者中に筋炎合併例が存在し、特徴的な筋力低下のパターンを示すことを見いだした。糞線虫感染と HTLV-1 感染の関連を検討し、論文として発表した。自験例の検討および文献収集を行い「HTLV-1 陽性の糞線虫患者診療の手引き」を策定した。HTLV-1 陽性難病患者については、HTLV-1 陽性関節リウマチ患者のコホートの解析をすすめ、ATL 発症リスクや生物学的製剤などの治療効果についての検討結果と最新の文献的報告をもとに「HTLV-1 陽性関節リウマチ患者診療の手引」を作成した。本研究により、HTLV-1 陽性者に生じる種々の難治性炎症性疾患を「HTLV-1 感染症」として包括的にとらえ、HTLV-1 感染症総合対策に資する診療基盤が整備された。

分担研究者

宮崎大学医学部 教授 岡山昭彦
長崎国際大学人間社会学部 教授 中村龍文
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
教授 高嶋博
京都府立大学大学院・医学研究科
教授 中川正法
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
准教授 久保田龍二

聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター
准教授 山野嘉久
琉球大学大学院 教授 藤田次郎
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
教授 川上純
東京医科歯科大学医学部付属病院
講師 鴨居功樹
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
准教授 中尾久美子
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
講師 松浦英治

研究協力者

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

講師 藤井一恭

宮崎大学 医学部

准教授 天野正宏

A. 研究目的

HTLV-1 は成人 T 細胞白血病(ATL)の原因ウイルスとして発見された初めてのヒトレトロウイルスで、我が国の感染者は 100 万人以上にのぼり、近年、大都市圏への拡散傾向が明らかとなった。HAM は緩徐進行性で長期の療養を強いる疾患で、その経過の中で様々な合併症や予期せぬ増悪により不幸な転機をとる例が経験されている。しかし、患者の自然経過、長期予後は不明のままであり、患者の長期予後の改善のためには、HAM に固有の合併症や予後不良因子とその臨床マーカーを明らかにし、増悪を未然に防ぐ対策を盛り込んだ診療指針の作成が急務となっている。

HTLV-1 は ATL や HAM の他にぶどう膜炎、気管支肺炎、シェーグレン症候群、多発性筋炎、多発性関節炎、慢性甲状腺炎、皮膚炎など、様々な難治性炎症性疾患との関連が示唆されている。しかし感染者のごく一部にのみ発症する希少性や地域偏在性、疾患の多様性のために集約的な研究が困難で、その実態と発症病態の解明が待たれている。

本研究では HAM をはじめとする HTLV-1 関連炎症性疾患を「HTLV-1 感染症」として包括的に捕らえ、HTLV-1 関連希少難治性炎症性疾患の概念の確立をめざすとともに、自験例の再調査を通して各疾患に共通の問題点とその対策を検討し、診療指針作成など、HTLV-1 感染症総合的対策に資する診療基盤を整備することを目的とした。

B. 研究方法

本研究では HTLV-1 高浸淫地域医療機関で、長期間の診療・研究実績を有する研究者による研究体制を構築し、それぞれの研究機関で蓄積されている患者診療情報データベースを用いて、以下の研究を推進した。

HAM の長期予後に関する後方視調査と治療の検証

非 HAM HTLV-1 関連希少炎症性疾患の後方視的、横断的検索

HTLV-1 陽性難病患者の診療実態調査

対象疾患は HTLV-1 との関連が疑われ、すでに患者の診療実績の蓄積が進んでいる以下の疾患とした。

- (1) HTLV-1 関連脊髄症(HAM)
- (2) HTLV-1 関連希少難治性炎症性疾患
 - HTLV-1(関連)ぶどう膜炎
 - HTLV-1 陽性関節リウマチ
 - HTLV-1 陽性シェーグレン症候群
 - HTLV-1 陽性炎症性筋疾患
 - HTLV-1 陽性重症糞線虫症

(倫理面への配慮)

本研究はすでにインフォームドコンセントが得られている患者を対象とし、各施設の臨床研究・疫学研究倫理委員会の承認を得ている。「疫学研究に関する倫理指針」に従って説明と同意取得をおこない実施された。

C. 研究結果

1. HAM の長期予後に関する後方視調査と治療の検証

HAM 患者 686 例のデータベースを用いた長期予後の解析から、複数の合併症の有無と重症度との関連が示唆された。それを元に HAM の合併症の診断アルゴリズムを作成した。

HAM の診断基準となる髄液抗 HTLV-1 抗体価測定法の妥当性を検討し、従来 PA 法と現在一般に採用されている CLEIA 法、CLEA 法が強い相関を有しており、診断基準、重症度基準として採用可能であることを明らかにした。

HAM に家族集積性があること、また、その臨床的特徴を明らかにした。HAM 発症の感受性遺伝子同定を目的とした遺伝子解析により候補遺伝子が絞り込まれた。

「HAMねっと」を活用した疫学調査により、発症早期の高い疾患活動性(急速進行)が予後不良因子となること、さらに急速進行に関与する因子として高齢発症、輸血歴が重要であることを示した。また、前向きコホート調査研究により、HAM患者の歩行障害指標、ADL指標が有意に悪化していること、全国の投薬治療実態、ステロイド内服の継続が進行抑制(長期予後改善)に有効である可能性を示した。

HTLV-1陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植はHAMの発症リスクが高く、発症後の経過も急速で重篤化する傾向が強いことを健康危険情報として報告した

HAMの重症度分類として現在広くもちいられている「Osameの運動機能障害度」は、HAMの進行や、治療による改善をよく反映していることが確認され、海外でも認知度が高いため、当面これをもちいることが妥当であると判断された。

全国のHAMの臨床家・研究者12名でHAM診療マニュアル改訂版の策定委員会を組織して「HAM診療マニュアル改訂版」を作成し、全国に配布した。

2. 非HAM HTLV-1 関連希少炎症性疾患の後方視的、横断的検索:

1) ぶどう膜炎

鹿児島大学、東京医科歯科大学、東京大学医学研究所病院、宮田眼科病院で症例の選定、調査をすすめ、血清抗HTLV-1抗体陽性で原因を特定できないぶどう膜炎の臨床像の特徴、診断した200例の全身的予後について検討した。ATLの合併2例、HAMの合併25例、47例が甲状腺機能亢進症を発症しており、甲状腺機能亢進症が先行してチアマゾール内服治療開始数週間～9年(中央値11ヶ月)後にぶどう膜炎を発症していた。ぶどう膜炎を発症したHTLV-1キャリアはHAMの発症頻度が一般キャリアより高い可能性があることを指摘した。

全国の大学病院と日本眼炎症学会所属施設にHTLV-1関連眼疾患診療状況についてアンケー

ト調査を行ない、現在のHTLV-1関連疾患における診療状況と、眼科医師が必要とする情報について解析した。72%の施設でHTLV-1感染による眼疾患についての情報提供が必要であるとの回答が得られ、特に必要な情報として、1.最新の疫学調査 2.感染経路 3.治療法と予後 3.免疫抑制剤や生物学的製剤のリスク 4.インフォームドコンセントのポイント 5.パンフレットの要望、などが挙げられた。これらの結果を踏まえ「HTLV-1関連ぶどう膜炎の診療の手引き」を作成した。

2) シェーグレン症候群

これまで、HTLV-1感染はシェーグレン症候群のリスクファクターで、HAMにはシェーグレン症候群が高頻度に合併することが明らかになっている。疫学的な観点から長崎大学でシェーグレン症候群とHTLV-1感染との関連を後方視的に解析し、抗HTLV-1抗体陽性-シェーグレン症候群の臨床像についての再評価をおこない、HAMに合併したシェーグレン症候群において独立した臨床的特徴を有していることを示し、原著論文として報告した。これらの結果をふまえ、現時点で、シェーグレン症候群の診療開始時に抗HTLV-1抗体を測定の必要性を示すエビデンスは無いこと、フローチャートを用いて、抗HTLV-1抗体測定の有無を確認し、陽性であれば、HAM、ATLおよびHTLV-1関連ぶどう膜炎の有無を確認の上、フォローアップを行うこと、腺症状のみの場合は補充療法を、腺外症状合併の場合はステロイド投与を考慮することなどを記載した、「抗HTLV-1抗体陽性のシェーグレン症候群の診療の手引き」を作成した。

3) 炎症性筋疾患

炎症性筋疾患の疫学的検討からHTLV-1関連炎症性筋炎の存在が示唆されているが、まだ一般に認知されるに至っていない。HAM患者のなかに炎症性筋疾患が存在する可能性を考え、鹿児島大学のHAM患者の筋力障害パターンを解析し、HAMの筋力低下は腸腰筋の選択性が高

いが、上肢屈筋群や近位筋・体幹筋の筋力低下も認められ、一般的な痙性脊髄麻痺患者にみられる伸展筋群優位の痙性麻痺とは異なっていることを示した。筋炎合併 HAM 患者は傍脊柱筋の萎縮が顕著で、組織学的には、萎縮筋には炎症細胞が多数認められ、特に CD4 陽性あるいは CD8 陽性リンパ球が筋周囲に浸潤していることをしめした。また、疫学調査でも鹿児島大学の炎症性筋疾患では高率に HTLV-1 抗体陽性で、炎症性筋疾患の病態に HTLV-1 感染が関与している可能性が示唆された。

4) 糞線虫症

琉球大学で HTLV-1 感染の有無と糞線虫症の病態について調査を進めた。全体の糞線虫感染率は 5.2 % で、男性は女性より有意に高かった。また感染率は若年者ほど低く、1960 年以降出生の患者には糞線虫感染を認めなかった。HTLV-1 感染率は 13.6% で、HTLV-1 感染者は HTLV-1 非感染者と比較して糞線虫感染率が有意に高く、重複感染者において、移植、免疫抑制療法、抗癌化学療法により播種性糞線虫感染症、または糞線虫過剰感染症候群を呈し易いことを明らかにした。また、1960 年以前に生まれた症例の糞線虫と HTLV-1 感染の有無を検索することにより、重症糞線虫感染症を予防することができる可能性を示した。

以上の結果を踏まえた上で、「HTLV-1 陽性糞線虫症の診療の手引き」を策定した。

3. HTLV-1 陽性難病患者の診療実態調査:

HTLV-1 感染合併慢性難治性炎症性疾患患者において ATL や HAM の発症頻度が増大しているのか否かは重要な問題である。この点を含めた HTLV-1 陽性難病患者の診療についての一般医療機関への情報提供や診療指針作成のニーズが大きいことは全国のリウマチ専門医療機関へのアンケートからも明らかである。しかしながら ATL や HAM の発症頻度は低く、この問題の解決には多数の HTLV-1 陽性患者の長期にわたる観

察が必要である。宮崎大学、長崎大学が協力して、大規模な患者情報の解析をすすめた。HTLV-1 陽性関節リウマチ患者の特徴として、TNF 阻害剤の投与によるウイルスマーカーの変化はなく、治療が ATL 発症リスクを上昇させる結果は認められなかった。しかしながら文献的にはバイオ製剤治療中に ATL 発症した症例報告がある。また HTLV-1 陽性関節リウマチ患者の病勢および治療反応性に関してリウマチの炎症が強く、TNF 阻害薬投与後の治療抵抗性も観察された。しかし結論を出すにはさらに大規模な比較を行う必要があると考えられた。

以上の成績および AMED 研究班で得られた研究結果も参考に HTLV-1 陽性関節リウマチ患者の実臨床に携わっている医師に現在の情報を提供することを目的として、「HTLV-1 陽性関節リウマチ患者診療の手引」を本邦ならびに世界的にも初めて作成した。この作成は日本リウマチ学会、日本 HTLV-1 学会の協力も得て行われ、現在の一般医療機関において有用かつ充分実施可能なものとなったと考えている。しかし、いまだ十分なエビデンスが得られていない項目もあり、今後さらに研究をつづけ継続的に改訂を行い、より有用なものを目指している。

D. 考察

1986 年の HAM の疾患概念提唱を契機に、各診療科の現場で HTLV-1 キャリアに生じている種々の慢性炎症が注目され、気管支肺炎、慢性関節リウマチ、シェーグレン症候群、多発性筋炎、ぶどう膜炎、慢性甲状腺炎などの慢性炎症性疾患と HTLV-1 との関連が報告された。しかし、これらの難治性炎症性疾患は、慢性関節リウマチ、多発性筋炎、シェーグレン症候群、慢性肺疾患など、各診療領域での大きな疾患枠の中にマイノリティーとして埋もれており、適切な疾病対策や研究の推進の妨げになっていた。本研究課題は各疾患を長期に追跡調査・研究してきた研究者により組織され、HTLV-1 感染者に起こる個々の慢性難治性炎症疾患について、「HTLV-1 感染症」として

包括的に捕らえ、HTLV-1 関連希少難治性炎症性疾患の概念の確立をめざすとともに、自験例の再調査を通して各疾患に共通の問題点とその対策を検討し、診療指針作成など、HTLV-1 感染症総合対策に資する診療基盤を整備することを目的としている。

本研究の成果として、各対象疾患について、診療実態調査が、HTLV-1 感染が引き起こす難治性炎症性疾患であるとの共通の認識のもとですすめられ、その解析結果を踏まえて、HAM の重症度分類の整備、「HAM 診療マニュアル改訂版」、「HTLV-1 関連ぶどう膜炎の診療の手引き」、「HTLV-1 陽性関節リウマチ患者診療の手引」、「抗 HTLV-1 抗体陽性のシェーグレン症候群の診療の手引き」、「HTLV-1 陽性糞線虫症の診療の手引き」の策定がすすめられた。いずれも希少難治性疾患を対象にしており、エビデンスに乏しい中で、HTLV-1 高侵淫地区で得られた診療経験を踏まえて作成され、診療経験の少ない地域で役に立つ診療ガイドとして作られている。これらの成果物はエキスパートにより作成された診療の現場に役立つもの、という意義とともに、それぞれのエキスパートが一堂に会して、これらの疾患を包括的に「HTLV-1 感染症」という、共通の認識のもとに議論を踏まえ作成されたもので、HTLV-1 関連希少難治性炎症性疾患の概念の確立をめざした基盤形成の第一歩となるものとしての意義も大きいと思われる。

本研究遂行のあたり、対象とした疾患の研究者に加え、皮膚科、呼吸器科、泌尿器科の研究者にも研究協力者として参加いただいた。その他にも、多くの病態と HTLV-1 感染との関連が示唆されている。今後、HTLV-1 感染との関連が想定される種々の慢性炎症性疾患を包括して、その対策を研究する体制へと発展していくことが望まれる。

E. 結論

本研究により、HTLV-1 陽性者に生じる HAM をはじめとする種々の慢性難治性炎症性疾患を

「HTLV-1 感染症」として包括的にとらえ、HTLV-1 感染症総合対策に資する診療基盤として、各対象疾患の診療をサポートするマニュアル、手引きが整備された。

F. 健康危険情報

HTLV-1 陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植は、HAM の発症リスクが高く発症後の経過も急速で重篤化する傾向が強いことを示し、健康危険情報として報告した。

G. 研究発表

1. 論文発表

平成 26 年度

出雲周二

[1]出雲周二. HTLV-1 感染症. ウイルス感染症 遅発ウイルス・レトロウイルス感染症. アクチュアル 脳・神経疾患の臨床 神経感染症を究める. 中山書店 辻 省次シリーズ総編集 pp129-135, (2014)

[2]出雲周二. HTLV-1 感染症. 付録 2 感染症関連ガイドラインと使用上の注意. アクチュアル 脳・神経疾患の臨床 神経感染症を究める. 中山書店 辻 省次シリーズ総編集 pp349-351, (2014)

[3]Matsuura E, Kubota R, Tanaka Y, Takashima H, Izumo S. Visualization of HTLV-1-Specific Cytotoxic T Lymphocytes in the Spinal Cords of Patients With HTLV-1-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis. J Neuropathol Exp Neurol. 2015 Jan;74(1):2-14.

[4]Nozuma S, Matsuura E, Matsuzaki T, Watanabe O, Kubota R, Izumo S, Takashima H. Familial clusters of HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. PLoS One. 2014 May 6;9(5):e86144.

岡山昭彦

[1]岡山昭彦. HTLV-1 感染と自己免疫疾患における clinical questions. 臨床免疫・アレルギー科. 2014; 62(6):686 - 691.

[2]Umekita K, Hidaka T, Miyauchi S, Ueno S, Kubo K, Takajo I, Hashiba Y, Kai Y, Nagatomo Y, Okayama A. Treatment with anti-tumor necrosis factor biologics agents in human T-lymphotropic virus type 1 positive patients with rheumatoid arthritis. *Arthritis Care Res.* 2014;66:788-92. doi: 10.1002/acr.22205.

中村龍文

[1]Nakamura H, Takahashi Y, Yamamoto-Fukuda T, Horai Y, Nakashima Y, Arima K, Nakamura T, Koji T, Kawakami A. Direct infection of primary salivary gland epithelial cells by HTLV-I that induces the niche of the salivary glands of Sjögren's syndrome patients. *Arthritis Rheumatol.* 2015;in press.

[2]Nakamura T, Satoh K, Nakamura H, Yamasaki H. Intracellular cyclic adenosine monophosphate regulates the efficiency of intercellular transmission of human T-lymphotropic virus type I. *Clin Exp Neuroimmunol.* 2014;5:209-215.

[3]Nakamura T, Satoh K, Fukuda T, Kinoshita I, Nishiura Y, Nagasato K, Yamauchi A, Kataoka Y, Nakamura T, Sasaki H, Kumagai K, Niwa M, Noguchi M, Nakamura H, Nishida N, Kawakami A. Pentosan polysulfate treatment ameliorates motor function with increased serum soluble vascular cell adhesion molecule-1 in HTLV-1 associated neurologic disease. *J Neurovirol.* 2014;20:269-277.

[4]中村龍文: 瘧性対麻痺(HAMを含む). 今日の治療指針: 897-899, 2015, 医学書院.

高嶋博

[1]Furukawa Y, Hashiguchi T, Minami R, Yamamoto M, Takashima H. Exacerbation of microcytic anemia associated with cessation of anti-retroviral therapy in an HIV-1-infected patient with beta thalassemia. *J Infect Chemother.* 2014 Jun;20(6):387-9.

[2]Nozuma S, Matsuura E, Matsuzaki T, Watanabe O, Kubota R, Izumo S, Takashima H. Familial clusters of HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. *PLOS ONE.* 2014;9(5):e86144.

[3]Ohkawa T, Satake S, Yokoi N, Miyazaki Y, Ohshita T, Sobue G, Takashima H, Watanabe O, Fukata Y, Fukata M. Identification and characterization of GABA(A) receptor autoantibodies in autoimmune encephalitis. *J Neurosci.* 2014;34(24):8151-63.

[4]Saito M, Tanaka R, Fujii H, Kodama A, Takahashi Y, Matsuzaki T, Takashima H, Tanaka Y. The neutralizing function of the anti-HTLV-1 antibody is essential in preventing in vivo transmission of HTLV-1 to human T cells in NOD-SCID/ β 2m^{-/-} (NOG) mice. *Retrovirology.* 2014;11(1):74.

[5]Maeda K, Idehara R, Hashiguchi A, Takashima H. A family with distal hereditary motor neuropathy and a K141Q mutation of small heat shock protein HSPB1. *Intern Med.* 2014;53(15):1655-8.

[6]Hashiguchi A, Takashima H et al. Neurofilament light mutation causes hereditary motor and sensory neuropathy with pyramidal signs. *J Peripher Nerv Syst.* In press

[7]Eiji Matsuura, Ryuji Kubota, Yuetsu Tanaka, Hiroshi Takashima and Shuji Izumo. Visualization of HTLV-1 Specific Cytotoxic T Lymphocytes in the Spinal Cords of Patients With HTLV-1-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis. *J Neuropathol Exp Neurol.* 2015 ;74(1):2-14.

[8]松浦英治 高嶋博 HTLV-1 関連脊髄症 別冊 BIO Clinica 慢性炎症と疾患 3(1), p.29-35, 2014 年

[9]松浦英治 出雲周二 HTLV-1 associated myelopathy (HTLV-1 関連脊髄症; HAM) - 日常臨床における HTLV-1 の理解と HAM 診断のピッ

トフォーラ - 脊椎脊髄ジャーナル 27(8), p.747-753, 2014 年

久保田龍二

[1]Nozuma S, Matsuura E, Matsuzaki T, Watanabe O, Kubota R, Izumo S, Takashima H: Familial clusters of HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. PLoS One. 9(5):e86144, 2014

[2]Matsuura E, Kubota R, Tanaka Y, Takashima H, Izumo S. Visualization of HTLV-1-specific cytotoxic T lymphocytes in the spinal cords of patients with HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. J Neuropath Exp Neurol.74(1): 2-14, 2015

山野嘉久

[1]Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Ando H, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Shibagaki Y, Nishioka K, Nakajima T, Hasegawa Y, Utsunomiya A, Kimura K, Yamano Y. Anti-CCR4 antibody mogamulizumab targets human T-lymphotropic virus type I-infected CD8+ as well as CD4+ T cells to treat associated myelopathy. J Infect Dis, 211(2):238-248, 2015.

[2]Araya N, Sato T, Ando H, Tomaru U, Yoshida M, Coler-Reilly A, Yagishita N, Yamauchi J, Hasegawa A, Kannagi M, Hasegawa Y, Takahashi K, Kunitomo Y, Tanaka Y, Nakajima T, Nishioka K, Utsunomiya A, Jacobson S, Yamano Y.

HLVL-1 induces a Th1-like state in CD4+CCR4+ T cells. J Clin Invest, 124(8):3431-3442, 2014.

[3]Ishihara M, Araya N, Sato T, Saichi N, Fujii R, Yamano Y, Sugano S, Ueda K. A plasma diagnostic model of human T cell leukemia virus-1 associated myelopathy Running head: Novel severity grade markers for HAM/TS. Annals of Clinical and Translational Neurology, in press

[4]Coler-Reilly A, Ando H, Yamano Y. Positive feedback loop via astrocytes causes chronic

inflammation in human T lymphotropic virus type 1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. Clinical and Experimental Neuroimmunology, 5(108-109), 2014.

[5]Kawamata T, Ohno N, Sato K, Kobayashi M, Jo N, Yuji K, Tanosaki R, Yamano Y, Tojo A, Uchimaru K. A case of post-transplant adult T-cell leukemia/lymphoma presenting myelopathy similar to but distinct from human T-cell leukemia virus type I (HTLV- I)-associated myelopathy. SpringerPlus, 3:581, 2014.

[6]山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症(HAM). 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ 神経症候群(第2版), 30:153-156, 2014.

[7]山野嘉久. HTLV-1 の神経障害. 内科, 113(6):1431, 2014.

[8]山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症(HAM)の分子病態に基づく治療戦略. 細胞, 46(6):258-261, 2014.

[9]山野嘉久. ヒト細胞白血病ウイルス 型関連脊髄症. 神経関連感染症 最新医学 別冊, 200-205, 2014.

[10]新谷奈津美, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症(HAM)に対する分子標的治療薬開発の現状と将来. 血液内科, 68(1)30-35, 2014.

[11]山野嘉久. 希少な慢性進行性の神経難病 HAM における治療有効性評価モデルの探索. 臨床評価 別冊, 41(3):504-508, 2014.

藤田次郎

[1]Kinjo T, Nabeya D, Nakamura H, Haranaga S, Hirata T, Nakamoto T, Atsumi E, Fuchigami T, Aoki Y, Fujita J. Acute respiratory distress syndrome due to Strongyloides stercoralis infection in a patient with cervical cancer. Intern Med (in press).

[2]腓液から活動性の糞線虫を認めた一例 東新川実和、平田哲生、大城 勝、石川雅士、田中照久、岸本一人、外間 昭、金城 渚、金城福則、

藤田次郎 *Clinical Parasitology* 24(1): 84-86, 2014

[3]イベルメクチン連続投与により軽快した糞線虫過剰感染症候群の1例 田中照久、平田哲生、東新川実和、岸本一人、外間 昭、金城福則、池宮城秀一、大屋祐輔、藤田次郎 *Clinical Parasitology* 24(1): 87-90, 2014

[4]目でみる胸部疾患(117) ニューモシスチス肺炎 柴原大典、大湾勤子、仲本 敦、知花賢治、藤田香織、久場睦夫、藤田次郎 *国立沖縄医誌* 34: 6-7, 2014

[5]HTLV-1 関連希少難治性疾患における臨床研究の全国展開と基盤整備(呼吸器疾患) 藤田次郎 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業(研究代表者 岡山昭彦) 平成 25 年度 総括・分担研究報告書 pp 18-22(2014 年 5 月)

[6]藤田次郎. 感染症 最近の動向 今日の治療指針 2015 pp 198-205 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編集(医学書院)

[7]嚢胞形成の経過を確認しえた成人 T 細胞白血病を背景としたニューモシスチス肺炎の1例 柴原大典、大湾勤子、知花賢治、仲本 敦、原永修作、藤田次郎 *日呼吸誌* 4(1): 96-100, 2015

川上純

[1]Kawashiri SY, Nakamura H, Origuchi T, Aoyagi K, Kawakami A. Ultrasonography and magnetic resonance imaging findings of rheumatoid arthritis-like arthritis in a patient with adult T-cell leukemia. *Mod Rheumatol.* 2014 Aug 13:1-5. [Epub ahead of print]

[2]Takagi Y, Sumi M, Nakamura H, Iwamoto N, Horai Y, Kawakami A, Nakamura T. Ultrasonography as an additional item in the American College of Rheumatology classification of Sjögren's syndrome. *Rheumatology (Oxford).* 2014 Nov;53(11):1977-83.

鴨居功樹

[1]Koju Kamoi, Manabu Mochizuki:Pre-surround division technique: Precise cracks surrounding the posterior opacity prior to phacoemulsification in posterior polar cataract surgery. , *J Cataract Refract Surg* , 2014.11; 40 (11) : 1764-176

[2]Toshikatsu Kaburaki, Kenichi Namba, Koh-hei Sonoda, Takeshi Kezuka, Hiroshi Keino, Takako Fukuhara, Koju Kamoi, Kei Nakai, Nobuhisa Mizuki, Nobuyuki Ohguro, :Behçet's disease ocular attack score 24: evaluation of ocular disease activity before and after initiation of infliximab. , *Jpn. J. Ophthalmol.* , 2014.03; 58 (2) : 120-130

[3]Tatsushi Kawaguchi, Yuko Kawazoe, Koju Kamoi, Masaru Miyanaga, Hiroshi Takase, Sunao Sugita, Manabu Mochizuki:Clinical course of patients with Behçet's uveitis following discontinuation of infliximab therapy. , *Jpn. J. Ophthalmol.* , 2014.01; 58 (1) : 75-80

[4]Hiroshi Takase, Reo Kubono, Yukiko Terada, Ayano Imai, Shoko Fukuda, Makoto Tomita, Masaru Miyanaga, Koju Kamoi, Sunao Sugita, Kazunori Miyata, Manabu Mochizuki Comparison of the ocular characteristics of anterior uveitis caused by herpes simplex virus, varicella-zoster virus, and cytomegalovirus. , *Jpn. J. Ophthalmol.* , 2014.11; 58 (6) : 473-482

松浦英治

[1]Furukawa Y, Hashiguchi T, Minami R, Yamamoto M, Takashima H. Exacerbation of microcytic anemia associated with cessation of anti-retroviral therapy in an HIV-1-infected patient with beta thalassemia. *J Infect Chemother.* 2014 Jun;20(6):387-9.

[2]Nozuma S, Matsuura E, Matsuzaki T, Watanabe O, Kubota R, Izumo S, Takashima H. Familial clusters of HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. *PLOS ONE.* 2014;9(5):e86144.

[3]Ohkawa T, Satake S, Yokoi N, Miyazaki Y, Ohshita T, Sobue G, Takashima H, Watanabe O, Fukata Y, Fukata M. Identification and characterization of GABA(A) receptor autoantibodies in autoimmune encephalitis. *J Neurosci.* 2014;34(24):8151-63.

[4]Saito M, Tanaka R, Fujii H, Kodama A, Takahashi Y, Matsuzaki T, Takashima H, Tanaka Y. The neutralizing function of the anti-HTLV-1 antibody is essential in preventing in vivo transmission of HTLV-1 to human T cells in NOD-SCID/ β 2-microglobulin (NOG) mice. *Retrovirology.* 2014;11(1):74.

[5]Maeda K, Idehara R, Hashiguchi A, Takashima H. A family with distal hereditary motor neuropathy and a K141Q mutation of small heat shock protein HSPB1. *Intern Med.* 2014;53(15):1655-8.

[6]Hashiguchi A, Takashima H et al. Neurofilament light mutation causes hereditary motor and sensory neuropathy with pyramidal signs *J Peripher Nerv Syst.* In press

[7]Eiji Matsuura, Ryuji Kubota, Yuetsu Tanaka, Hiroshi Takashima and Shuji Izumo. Visualization of HTLV-1 Specific Cytotoxic T Lymphocytes in the Spinal Cords of Patients With HTLV-1-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis. *J Neuropathol Exp Neurol.* 2015 ;74(1):2-14.

[8]松浦英治 高嶋博 HTLV-1 関連脊髄症 別冊 BIO Clinica 慢性炎症と疾患 3(1), p.29-35, 2014 年

[9]松浦英治 出雲周二 HTLV-1 associated myelopathy (HTLV-1 関連脊髄症; HAM) - 日常臨床における HTLV-1 の理解と HAM 診断のピットフォール - 脊椎脊髄ジャーナル 27(8),p.747-753, 2014 年

平成 27 年度
出雲周二

[1]出雲周二 . ヒト T リンパ球向性ウイルス 1 型 (HTLV-1) 関連脊髄症 . 臨床神経内科学 (改訂 6 版) 平山恵造 監修, pp309-312, 南山堂 .

[2]出雲周二、邢惠琴. 脳炎とミクログリア - HIV 脳炎・脳症におけるミクログリアの病態を中心に - . *Clinical Neuroscience*, 33(12): 1369-1371, 2015.

[3] Kuramitsu M, Okuma K, Yamochi T, Sato T, Sasaki D, Hasegawa H, Umeki K, Kubota R, Sobata R, Matsumoto C, Kaneko N, Naruse I, Yamagishi M, Nakashima M, Momose H, Araki K, Mizukami T, Mizusawa S, Okada Y, Ochiai M, Utsunomiya A, Koh KR, Ogata M, Nosaka K, Uchimaruk K, Iwanaga M, Sagara Y, Yamano Y, Satake M, Okayama A, Mochizuki M, Izumo S, Saito S, Itabashi K, Kamihira S, Yamaguchi K, Watanabe T, Hamaguchi I. Standardization of Quantitative PCR for Human T-Cell Leukemia Virus Type 1 in Japan: a Collaborative Study. *J Clin Microbiol.* 53(11):3485-912015.

[4]Sakiyama Y, Kanda N, Higuchi Y, Yoshimura M, Wakaguri H, Takata Y, Watanabe O, Yuan J, Tashiro Y, Saigo R, Nozuma S, Yoshimura A, Arishima S, Ikeda K, Shinohara K, Arata H, Michizono K, Higashi K, Hashiguchi A, Okamoto Y, Hirano R, Shiraishi T, Matsuura E, Okubo R, Higuchi I, Goto M, Hirano H, Sano A, Iwasaki T, Matsuda F, Izumo S, Takashima H. New type of encephalomyelitis responsive to trimethoprim/sulfamethoxazole treatment in Japan. *Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm.* 2(5):e143, 2015.

岡山昭彦

[1]Ishida Y, Yukizaki C, Okayama A, Kataoka H. Glutathione As Preventive and Therapeutic Target of Adult T-Cell Leukemia /Lymphoma and Its Regulation by Carnosol, a Functional Food Ingredient. *Nova Science Publishers, Inc.* 2015; 127-144.

[2]Kuramitsu M, Okuma K, Yamochi T, Sato T, Sasaki D, Hasegawa H, Umeki K, Kubota R,

Sobata R, Matsumoto C, Kaneko N, Naruse I, Yamagishi M, Nakashima M, Momose H, Araki K, Mizukami T, Mizusawa S, Okada Y, Ochiai M, Utsunomiya A, Koh KR, Ogata M, Nosaka K, Uchimaru K, Iwanaga M, Sagara Y, Yamano Y, Satake M, Okayama A, Mochizuki M, Izumo S, Saito S, Itabashi K, Kamihira S, Yamaguchi K, Watanabe T, Hamaguchi I. Standardization of Quantitative PCR for Human T-cell Leukemia Virus Type 1 in Japan: A Collaborative Study. *J Clin Microbiol*. 2015. [Epub ahead of print]

中村龍文

[1]Nakamura H, Shimizu T, Takagi Y, Takahashi Y, Horai Y, Nakashima Y, Sato S, Shiraishi H, Nakamura T, Fukuoka J, Nakamura T, Kawakami A. Reevaluation for clinical manifestations of HTLV-I-seropositive patients with Sjögren's syndrome. *BMC Musculoskelet Disord*. 2015;16:335.

[2]Nakamura H, Takahashi Y, Yamamoto-Fukuda T, Horai Y, Nakashima Y, Arima K, Nakamura T, Koji T, Kawakami A. Direct infection of primary salivary gland epithelial cells by HTLV-I that induces the niche of the salivary glands of Sjögren's syndrome patients. *Arthritis Rheumatol*. 2015;67:1096-1106.

[3]Nakamura T, Satoh K, Fukushima N. Involvement of C-X-C chemokine receptor type-4 signaling in the efficiency of intercellular transmission of human T-lymphotropic virus type I. *Clin Exp Neuroimmunol* 2016;in press.

[4]中村龍文, 佐藤克也. HTLV-I 関連脊髄症/熱帯性痙性不全対麻痺症 (HAM/TSP). 免疫症候群 (第2版) その他の免疫疾患を含めて. *日本臨牀*. 2015;34:93-97.

[5]中村龍文:HTLV-I関連脊髄症に対する新しい治療戦略の開発に向けて.*NEUROINFECTION*: 2015;20:13-17.

[6]中村龍文, 松尾朋博:【神経疾患と感染症 update】HTLV-I 関連脊髄症. *BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩*. 2015;67:845-858.

高嶋博

[1]Eiji Matsuura, Ryuji Kubota, Yuetsu Tanaka, Hiroshi Takashima and Shuji Izumo.

Visualization of HTLV-1 Specific Cytotoxic T Lymphocytes in the Spinal Cords of Patients With HTLV-1-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis. *J Neuropathol Exp Neurol*. 2015 ;74(1):2-14.

[2]Matsuura E, Yoshimura A, Nozuma S, Higuchi I, Kubota R, Takashima H. Clinical presentation of axial myopathy in two siblings with HTLV-1 associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP). *BMC Neurol*. 2015 Feb 28;15:18. doi: 10.1186/s12883-015-0275-7

[3]Nozuma S, Matsuura E, Matsuzaki T, Watanabe O, Kubota R, Izumo S, Takashima H. Familial clusters of HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. *PLOS ONE*. 2014;9(5):e86144.

[4]Sakiyama Y, Kanda N, Higuchi Y, Yoshimura M, Wakaguri H, Takata Y, Watanabe O, Yuan J, Tashiro Y, Saigo R, Nozuma S, Yoshimura A, Arishima S, Ikeda K, Shinohara K, Arata H, Michizono K, Higashi K, Hashiguchi A, Okamoto Y, Hirano R, Shiraishi T, Matsuura E, Okubo R, Higuchi I, Goto M, Hirano H, Sano A, Iwasaki T, Matsuda F, Izumo S, Takashima H. New type of encephalomyelitis responsive to trimethoprim /sulfamethoxazole treatment in Japan. *Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm*. 13;2(5):e143. 2015 Aug

[5]Hashiguchi A, Higuchi Y, Nomura M, Nakamura T, Arata H, Yuan J, Yoshimura A, Okamoto Y, Matsuura E, Takashima H. Neurofilament light mutation causes hereditary motor and sensory neuropathy with pyramidal

signs *J Peripher Nerv Syst.*;19(4):311-6. 2014
Dec

中川正法

[1]Yasuma K, Yasunaga J, Takemoto K, Sugata K, Mitobe Y, Takenouchi N, Nakagawa M, Suzuki Y, Matsuoka M. HTLV-1 bZIP factor impairs anti-viral immunity by inducing co-inhibitory molecule, T cell immunoglobulin and ITIM domain (TIGIT). *PLoS Pathog.* 12(1):e1005372,2016.

久保田龍二

[1]Matsuura E, Kubota R, Tanaka Y, Takashima H, Izumo S: Visualization of HTLV-1-specific cytotoxic T lymphocytes in the spinal cords of patients with HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. *J Neuropath Exp Neurol.*74(1): 2-14, 2015.

[2]Matsuura E, Yoshimura A, Nozuma S, Higuchi I, Kubota R, Takashima H: Clinical presentation of axial myopathy in two siblings with HTLV-1 associated myelopathy/ tropical spastic paraparesis (HAM/TSP). *BMC Neurol.* 15: 18, 2015.

[3]久保田龍二: 神経疾患最新の治療 2015-2017。ヒトTリンパ球向性ウイルス脊髄症 (HAM)。小林祥泰/水澤英洋/山口修平 編集。pp205-207, 南江堂。2015

山野嘉久

[1]Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato T, Araya N, Yagishita N, Ando H, Kunitomo Y, Takahashi K, Tanaka Y, Shibagaki Y, Nishioka K, Nakajima T, Hasegawa Y, Utsunomiya A, Kimura K, Yamano Y. Anti-CCR4 antibody mogamulizumab targets human T-lymphotropic virus type I-infected CD8+ as well as CD4+ T cells to treat associated myelopathy. *J Infect Dis,* 211(2):238-48, 2015.

[2]Ishihara M, Araya N, Sato T, Saichi N, Fujii R, Yamano Y, Sugano S, Ueda K. A plasma

diagnostic model of human T-cell leukemia virus-1 associated myelopathy.

Ann Clin Transl Neurol, 2(3):231-240, 2015

[3]Kuramitsu M, Okuma K, Yamochi T, Sato T, Sasaki D, Hasegawa H, Umeki K, Kubota R, Sobata R, Matsumoto C, Kaneko N, Naruse I, Yamagishi M, Nakashima M, Momose H, Araki K, Mizukami T, Mizusawa S, Okada Y, Ochiai M, Utsunomiya A, Koh KR, Ogata M, Nosaka K, Uchimar K, Iwanaga M, Sagara Y, Yamano Y, Satake M, Okayama A, Mochizuki M, Izumo S, Saito S, Itabashi K, Kamihira S, Yamaguchi K, Watanabe T, Hamaguchi I. Standardization of Quantitative PCR for Human T-cell Leukemia Virus Type 1 in Japan: A Collaborative Study. *J Clin Microbiol.* 2015. [Epub ahead of print]

[4]Martin F, Inoue E, Cortese ICM, de Almeida Kruschewsky R, Adonis A, Grassi MFR, Galvão-Castro B, Jacobson S, Yamano Y, Taylor GP, Bland M. Timed walk as primary outcome measure of treatment response in clinical trials for HTLV-1-associated myelopathy: a feasibility study. *Pilot and Feasibility Studies* 2015, 1:35, 2015

[5]Yasuma K, Matsuzaki T, Yamano Y, Takashima H, Matsuoka M, Saito M. HTLV-1 subgroups associated with the risk of HAM/TSP are related to viral and host gene expression in peripheral blood mononuclear cells, independent of the transactivation functions of the viral factors. *J Neurovirol.* 2015.[Epub ahead of print]

[6]Bangham C, Araujo A, Yamano Y & Taylor G. HTLV-I-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis. *Nature Reviews Disease Primers,* 1, 2015.

[7]Yamano Y. How does human T-lymphotropic virus type 1 cause central nervous system disease? The importance of cross-talk between infected T cells and astrocytes. *Clin Exp Neuroimmunol,* 6(4):395-401, 2015.

- [8]山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症(HAM) - 分子病態解明による治療薬開発の新展開. 医学のあゆみ, 255(5):485-490, 2015.
- [9]山野嘉久. HAM に対するヒト化 CCR4 抗体の医師主導治験. 臨床評価, 43(2):418-421, 2016.
- [10]石塚賢治, 山野嘉久, 宇都宮與, 内丸薫. HTLV-1 キャリア外来の実態調査. 臨床血液, 56(6):666-672, 2015.
- [11]山内 淳司, 佐藤 知雄, 八木下 尚子, 新谷 奈津美, 力石 辰也, 山野 嘉久, 柴垣 有吾. HTLV-1 陽性ドナーからの生体腎移植によりレシピエントに発症する HAM の特徴. 日本透析医学会雑誌, 48(1):483, 2015.
- [12]山野嘉久, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄. 免疫性神経疾患 - 基礎・臨床研究の最新知見 -. 日本臨牀, 73(7) :546-553, 2015.
- [13]山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症(HAM). 難病事典, 2-5, 2015.
- [14]山野嘉久. 痙性対麻痺(HAM を含む). 今日の治療指針 2016, 山口 徹, 北原光夫 監修. P964-965, 医学書院, 東京, 2016.

藤田次郎

- [1]Kinjo T, Nabeya D, Nakamura H, Haranaga S, Hirata T, Nakamoto T, Atsumi E, Fuchigami T, Aoki Y, Fujita J. Acute respiratory distress syndrome due to Strongyloides stercoralis infection in a patient with cervical cancer Intern Med. 54:83-87, 2015
- [2]東新川実和, 田中照久, 平田哲生, 外間 昭, 名嘉栄勝, 藤田次郎: 糞線虫症患者の駆虫前後での症状と検査結果の比較検討. Clinical Parasitology. 26:32-35, 2015
- [3]金城武士: 目で見える寄生虫疾患 糞線虫症(呼吸器疾患) 目で見える感染症. 原永修作, 藤田次郎(編). 羊土社. 147-9. 2015
- [4]田中照久: 目で見える寄生虫疾患 糞線虫症(消化器疾患). 目で見える感染症. 原永修作, 藤田次郎(編). 羊土社. 150-2. 2015

- [5]金城福則, 仲村将泉, 内間庸文, 田中照久, 金城 徹, 平田哲生, 藤田次郎, 外間昭: 糞線虫症. G. I. Research. 23, 242-7, 2015
- [6]外間 昭: 糞線虫症. 今日の治療指針 2016. 福井次矢, 高木 誠, 小室一成(編). 医学書院. 224-5, 2016
- [7]平田哲生: 糞線虫症. 寄生虫薬物治療の手引き改訂第 9.0 版. 丸山治彦, 加藤康幸, 木村幹男, 日谷明裕(編). 日本医療研究開発機構 新興
- [8]再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業「わが国における熱帯病・寄生虫症の最適な治療診断体制の構築」. Pp58-59. 2016.
- [9]Tanaka T, Hirata T, Parrott G, Higashiarakawa M, Kinjo T, Kinjo T, Hokama A, Fujita J: Relationship among Strongyloides stercoralis infection, Human T-cell lymphotropic virus type 1 infection, and cancer: A 24-year cohort inpatients study in Okinawa, Japan. Am J Trop Med Hyg. 94:365-70, 2016

川上純

- [1]Nakamura H, Shimizu T, Takagi Y, Takahashi Y, Horai Y, Nakashima Y, Sato S, Shiraishi H, Nakamura T, Fukuoka J, Nakamura T, Kawakami A. Reevaluation for clinical manifestations of HTLV-I-seropositive patients with Sjögren's syndrome. BMC Musculoskelet Disord. 2015 Nov 4;

鴨居功樹

- [1]Kamoi K, Mochizuki M. HTLV-1 uveitis. Intraocular Inflammation. pp1197-1202. Springer. 2016. Kamoi K, Nagata Y, Mochizuki M, Kobayashi D, Ohno N, Uchimaruru K, Tojo A, Ohno-Matsui K. Formation of Segmental Rounded Nodules During Infiltration of Adult T-Cell Leukemia Cells Into the Ocular Mucous Membrane. Cornea. 35:137-139. 2016.

[2]宮永 将, 高瀬 博, 川口 龍史, 鴨居 功樹, 清水 健太郎, 横田 眞子, 杉田 直, 望月 學. 日本眼科学会雑誌. 119:678-685.2015.

[3]尾碕 憲子, 川口 龍史, 村上 喜三雄, 鴨居 功樹, 高瀬 博, 杉田 直. 造血器悪性疾患に合併した眼底病変に対する包括的感染症 PCR の有用性. 臨床眼科. 69: 1323-1327. 2015.

松浦英治

[1]Eiji Matsuura, Ryuji Kubota, Yuetsu Tanaka, Hiroshi Takashima and Shuji Izumo.

Visualization of HTLV-1 Specific Cytotoxic T Lymphocytes in the Spinal Cords of Patients With HTLV-1-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis. J Neuropathol Exp Neurol. 2015 ;74(1):2-14.

[2]Matsuura E, Yoshimura A, Nozuma S, Higuchi I, Kubota R, Takashima H. Clinical presentation of axial myopathy in two siblings with HTLV-1 associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP). BMC Neurol. 2015 Feb 28;15:18. doi: 10.1186/s12883-015-0275-7

[3]Nozuma S, Matsuura E, Matsuzaki T, Watanabe O, Kubota R, Izumo S, Takashima H. Familial clusters of HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis. PLOS ONE. 2014;9(5):e86144.

[4]Sakiyama Y, Kanda N, Higuchi Y, Yoshimura M, Wakaguri H, Takata Y, Watanabe O, Yuan J, Tashiro Y, Saigo R, Nozuma S, Yoshimura A, Arishima S, Ikeda K, Shinohara K, Arata H, Michizono K, Higashi K, Hashiguchi A, Okamoto Y, Hirano R, Shiraishi T, Matsuura E, Okubo R, Higuchi I, Goto M, Hirano H, Sano A, Iwasaki T, Matsuda F, Izumo S, Takashima H. New type of encephalomyelitis responsive to trimethoprim /sulfamethoxazole treatment in Japan. Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 13;2(5):e143. 2015 Aug

[5]Hashiguchi A, Higuchi Y, Nomura M, Nakamura T, Arata H, Yuan J, Yoshimura A, Okamoto Y, Matsuura E, Takashima H. Neurofilament light mutation causes hereditary motor and sensory neuropathy with pyramidal signs J Peripher Nerv Syst.;19(4):311-6. 2014 Dec

2. 学会発表

平成 26 年度

出雲周二

[1]Izumo S. Neuropathology of Retrovirus Infection. International Workshop 3, Infection and Other Inflammation, 2014 年 5 月 21 日 第 55 回日本神経学会 福岡市

[2]児玉大介, 出雲公子, 久保田龍二, 松崎敏男, 高嶋 博, 出雲周二:HTLV-1 感染細胞のウイルスアセンブリーは N-アセチルラクトサミンとガレクチン-3 である。2014 年 5 月 21 日 第 55 回日本神経学会 福岡。

[3]児玉大介, 久保田龍二, 松崎敏男, 高嶋 博, 出雲周二:HAM 患者 CD4+T 細胞表面の N-アセチルラクトサミン - ガレクチン-3 格子は細胞外ウイルス会合体かもしれない。2014 年 9 月 6 日 第 19 回日本神経感染症学会 金沢。

岡山昭彦

[1]梅木一美, 橋倉悠輝, 山本成郎, 岡山昭彦. 高感度 PCR 法および Line Immunoassy による HTLV-1 抗体陽性の確認. 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会. 2014 . 東京都

[2]橋倉悠輝, 梅木一美, 山本成郎, 長谷川寛雄, 柳原克紀, 岡山昭彦. MT-2 細胞株の HTLV-1 プロウイルスの組み込み部位および内部構造の多様性. 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会. P-14. 2014. 東京都

[3]Okayama A, Iwanaga M, Sagara Y, Hidaka T, Umekita K, Nakano K, Watanabe T, Yamano Y, Horai Y, Nakamura H, Kawakami A. Human T-Lymphotropic Virus Type 1 Biomarkers in

Patients with Rheumatoid Arthritis. 2014
ACR/ARHP ANNUAL MEETING. 2014. Boston
[4]梅木一美, 橋倉悠輝, 山本成郎, 岡山昭彦.
HTLV-1 抗体確認試験としての Line
Immunoassay の有用性. 第 61 回日本臨床検査
医学会学術集会. 2014. 福岡市
[5]Okayama A. HTLV-1 infection and associated
diseases. Seminar in Department of Immunology
and Infectious Diseases, HSPH. 2014. Boston
[6]岡山昭彦, HTLV-1 感染症と慢性炎症性疾患.
京都大学ウイルス研究所セミナー. 2014. 京都市

中村龍文

[1]松尾朋博, 中村龍文, 大庭康司郎, 望月保志,
宮田康好, 酒井英樹: プロスルチアミン経口薬
により HTLV-1 関連脊髄症に随伴した過活動膀
胱患者の症状は軽快し, 尿中バイオマーカーも
低下した. 第 21 回日本排尿機能学会, 2014 年 9
月, 岡山
[2]中村龍文: HTLV-1 関連脊髄症に対する新しい
治療戦略の開発に向けて. 合同シンポジウム「感
染と神経免疫」, 第 19 回日本神経感染症
学会/第 26 回日本神経免疫学会 合同学術集会
、2014 年 9 月, 石川.
[3]Matsuo T, Nakamura T, Miyata Y, Ohba K,
Sakai H: Oral administration of prosultiamine
improved the symptoms in patients with overactive
bladder associated with HTLV-1-related
myelopathy/tropical spastic paraparesis, and also
reduced urinary biomarkers. International
Continence Society 2014, Rio de Janeiro, Brazil
[4]Matsuo T, Nakamura T, Ohba K, Miyata Y,
Sakai H: Oral administration of prosultiamine
results in symptom improvement in patients with
overactive bladder due to HTLV-1-associated
myelopathy/tropical spastic paraparesis. XII
International Symposium of HTLV in Brasil, 2014
Dec. Sao Paulo, Brasil
[5]Tatsufumi Nakamura. Perspectives of
HAM/TSP treatment. XII International

Symposium of HTLV-I in Brazil. Dec, 2014, São
Paulo, Brazil.

高嶋博

[1]エクソーム解析による HAM 疾患感受性遺伝子
の探索 Exome sequencing identifies novel rare
variants in HAM/TSP 野妻智嗣, 松浦英治, 久
保田龍二, 児玉大介, 松崎敏男, 渡邊 修, 三井
純, 石浦浩之, 高橋祐二, 山野嘉久, 森下真一,
辻省次, 出雲周二, 高嶋 博 2014 年 5 月 21 日
第 55 回日本神経学会 福岡市
[2]過去 10 年間に当科に入院した HAM 患者 144
人の筋力低下パターンの検討 松浦英治, 野妻
智嗣, 松崎敏男, 渡邊 修, 久保田龍二, 出雲周
二, 高嶋 博 2014 年 5 月 21 日 第 55 回日本神
経学会学術集会 福岡市 (ポスター)
[3]HTLV-1 関連脊髄症の疾患活動性と発症年齢
の関係 - HAM は発症年齢が高いほど急速進
行する - 松浦英治, 大窪隆一, 渡邊 修, 高嶋
博 2014 年 6 月 14 日 第 51 回日本老年医学会
福岡市 (口演)
[4]Clinical manifestation and disease course of the
patient with HAM/TSP Eiji Matsuura, Satoshi
Nozuma, Osamu Watanabe, Hiroshi Takashima
2014 年 7 月 10 日 13th ICNMD, Nice, France (ポ
スター)
[5]次世代シーケンサーによる HAM 疾患感受
性遺伝子の探索 野妻智嗣, 松浦英治, 久保田
龍二, 児玉大介, 松崎敏男, 渡邊 修, 三井純,
石浦浩之, 高橋祐二, 山野嘉久, 森下真一, 辻
省次, 出雲周二, 高嶋 博 2014 年 8 月 23 日第
1 回 HTLV-1 学会 東京都 (口演)
[6]過去 10 年間に当科に入院した連続 HAM 患者
の筋力低下パターン 松浦英治, 野妻智嗣, 松崎
敏男, 渡邊 修, 久保田龍二, 出雲周二, 高嶋
博 2014 年 9 月 6 日 第 19 回神経感染症学会学
術集会 金沢市 (口演)

久保田龍二

[1]久保田龍二、松崎敏男、高嶋 博、出雲周二：HAM における HTLV-1 HBZ 特異的 CTL の検出。第 55 回日本神経学会学術大会。2014 年 5 月 福岡

[2]児玉大介、出雲公子、久保田龍二、松崎敏男、高嶋 博、出雲周二：HTLV-1 感染細胞のウイルスアセンブリーは N-アセチルラクタサミンとガレクチン-3 である。第 55 回日本神経学会学術大会。2014 年 5 月 福岡

[3]松浦英治、野妻智嗣、松崎敏男、渡邊修、久保田龍二、出雲周二、高嶋 博：HAM 患者の筋力低下パターンへの検討。第 55 回日本神経学会学術大会。2014 年 5 月 福岡

[4]野妻智嗣、松浦英治、松崎敏男、渡邊修、久保田龍二、出雲周二、高嶋 博：エクソーム解析による HAM 疾患感受性遺伝子の探索。第 55 回日本神経学会学術大会。2014 年 5 月 福岡

[5]久保田龍二、齋藤峰輝、高嶋 博、出雲周二：HAM における HTLV-1 抗原遺伝子変異と CTL 認識。第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会。2014 年 8 月、東京。

[6]久保田龍二、松崎敏男、高嶋 博、出雲周二：HTLV-1 HBZ 特異的 CTL のエピトープ同定と HAM における検出。第 19 回日本神経感染症学会学術集会。2014 年 9 月、金沢

山野嘉久

[1]Ishihara M, Araya N, Sato T, Fujii R, Tatsuguchi A, Saichi N, Nakagawa H, Yamano Y, Ueda K. Quantitative membrane proteome profiling to discover therapeutic targets for adult T-cell leukemia (ATL). AACR Annual Meeting 2014, 5-9 April, 2014, San Diego, USA.

[2]余郷麻希子、大本周作、向井泰司、安部宏、相澤良夫、高橋利幸、山野嘉久、鈴木正彦。慢性 C 型肝炎に対するインターフェロン療法後に、抗アクアポリン 4 抗体及び抗 HTLV-1 抗体陽性の脊髄長大病変を呈した 49 歳女性例。第 210 回日本神経学会関東・甲信越地方会、2014 年 9 月 6 日、東京都(千代田区)。

[3]佐藤知雄、新谷奈津美、安藤仁、山内淳司、國友康夫、高橋克典、齋藤祐美、石川美穂、八木下尚子、山野嘉久。HAM における Th1 様異常 T 細胞の発生機構および病態への関与。第 19 回日本神経感染症学会総会学術集会・第 26 回日本神経免疫学会学術集会合同学術集会、2014 年 9 月 4 日～6 日、石川県(金沢市)。

[4]山内淳司、新谷奈津美、安藤仁、Ariella Coler-Reilly、國友康夫、高橋克典、八木下尚子、佐藤知雄、宇都宮與、山野嘉久。HAM における抗 CCR4 抗体療法の有用性および CCR4+CD8+T 細胞の異常に関する検討。第 19 回日本神経感染症学会総会学術集会・第 26 回日本神経免疫学会学術集会合同学術集会、2014 年 9 月 4 日～6 日、石川県(金沢市)。

[5]山野嘉久、木村美也子、八木下尚子、鈴木弘子、石川美穂、小池美佳子、齋藤 祐美、新谷奈津美、佐藤知雄、高田礼子。HAM 患者登録システム「HAM ねっと」を用いた疫学的解析。第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会、2014 年 8 月 22 日～24 日、東京都(港区)。

[6]佐藤知雄、井上永介、新谷奈津美、高橋克典、國友康夫、Ariella Coler-Reilly、山内淳司、八木下尚子、山野嘉久。HTLV-1 関連脊髄症(HAM)の臨床的評価指標の有用性に関する検討。第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会、2014 年 8 月 22 日～24 日、東京都(港区)。

[7]新谷奈津美、佐藤知雄、安藤仁、外丸詩野、Ariella Coler-Reilly、八木下尚子、山内淳司、長谷川温彦、神奈木真理、田中勇悦、宇都宮與、山野嘉久。HTLV-1 による HTLV-1 関連脊髄症(HAM)病原性 T 細胞の発生機構の解析。第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会、2014 年 8 月 22 日～24 日、東京都(港区)。

[8]八木下尚子、有厚厚孝、菊池崇之、木村未祐奈、佐藤健太郎、石川美穂、鈴木弘子、小池美佳子、齋藤祐美、新谷奈津美、佐藤知雄、木村美也子、高田礼子、山野嘉久。HTLV-1 関連脊髄症(HAM)患者登録システム「HAM ねっと」の患

者満足度調査. 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2014 年 8 月 22 日 ~ 24 日, 東京都(港区).

[9]山内淳司, 新谷奈津美, 安藤仁, 國友康夫, 高橋克典, Ariella Coler-Reilly, 八木下尚子, 佐藤知雄, 宇都宮與, 山野嘉久. HAM における抗 CCR4 抗体療法の有効性および CCR4+CD8+T 細胞の異常に関する検討. 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2014 年 8 月 22 日 ~ 24 日, 東京都(港区).

[10]遠藤寿子, 中島孝, 池田哲彦, 大田健太郎, 會田泉, 米持洋介, 山野嘉久. HAM の歩行不安定症に対する歩行改善プログラムに関する検討. 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2014 年 8 月 22 日 ~ 24 日, 東京都(港区).

[11]寺田裕紀子, 鴨居功樹, 山野ちなみ, 山野嘉久. HTLV-1 キャリアに合併した関節リウマチに対する生物学的製剤の使用で HTLV-1 ぶどう膜炎と HTLV-1 関連脊髄症が悪化した 1 例. 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2014 年 8 月 22 日 ~ 24 日, 東京都(港区).

[12]石原誠人, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 藤井理沙, 最知直美, 宇都宮與, 山野嘉久, 菅野純夫, 植田幸嗣. CD4 陽性 T 細胞を用いた膜プロテオーム解析による HTLV-1 関連脊髄症に対する新規治療標的分子の探索. 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2014 年 8 月 22 日 ~ 24 日, 東京都(港区).

[13]山野嘉久. HAM の炎症慢性化における astrocyte を介した炎症悪性ループの重要性. 第 55 回日本神経学会学術大会, 2014 年 5 月 21 日 ~ 5 月 24 日, 福岡県(福岡市).

[14]菊池崇之, 有福厚孝, 木村未祐奈, 佐藤健太郎, 本橋隆子, 木村美也子, 網中雅仁, 高田礼子, 八木下尚子, 山野嘉久. 患者 QOL の改善に向けた患者レジストリの満足度調査. 第 55 回日本神経学会学術大会, 2014 年 5 月 21 日 ~ 5 月 24 日, 福岡県(福岡市).

藤田次郎

[1]ニューモシスチス肺炎の治療中, 成人型 T 細胞性白血病を発病した 1 例 知花賢治, 藤田香織, 仲本 敦, 大湾勤子, 久場睦夫, 柴原大典, 藤田次郎 第 305 回日本内科学会九州地方会 (2014 年 5 月 31 日, 熊本市, 熊本)

[2]糞線虫過敏感染症候群により ARDS を発症した 1 例 山本朋子, 金城武士, 鍋谷大二郎, 原永修作, 平田哲生, 藤田次郎 第 305 回日本内科学会九州地方会 (2014 年 5 月 31 日, 熊本市, 熊本)

川上純

[1]向野晃弘, 中根俊成, 樋口 理, 中村英樹, 川上 純, 松尾秀徳. Tsokos, G. C. シェーグレン症候群における抗 gAChR 抗体陽性例陰性例の比較検討. 2014/9/4-6. 第 19 回日本神経感染症学会総会学術集会 第 26 回 日本神経免疫学会学術集会合同学術集会.

[2]岩本直樹, 玉井慎美, 川尻真也, 西野文子, 高谷亜由子, 中島好一, 鈴木貴久, 竇來吉朗, 一瀬邦弘, 中村英樹, 折口智樹, 上谷雅孝, 川上 純. 多角的画像診断によるシェーグレン症候群関節症の検討 関節リウマチとの鑑別のために . 2014/4/24-26. 第 58 回日本リウマチ学会総会・学術集会.

鴨居功樹

[1]Koju Kamoi, Yukiko Terada, Kazunori Miyata, Manabu Mochizuki, Kyoko Ohno-Matsui. Analysis of complications in patients with HTLV-1 uveitis. Asia-ARVO 2015.02.17

[2]Koju Kamoi, Yukiko Terada, Kazunori Miyata, Manabu Mochizuki. Association of HTLV-1 uveitis with systemic inflammatory diseases and adult T cell leukemia, The Association for Research in Vision and Ophthalmology Annual Meeting, 2014.05.07

[3]川口龍史, 尾碇憲子, 村上喜三雄, 鴨居功樹, 高瀬博, 杉田直, 造血器悪性疾患に合併した眼底病変に対する前房水を用いた包括的感染症

PCRの有用性,第68回日本臨床眼科学会,神戸,2014.11.13

[4]寺田裕紀子,鴨居功樹,山野ちなみ,山野嘉久, HTLV-1 キャリアに合併した関節リウマチにおける生物学的製剤の使用でHTLV-1ぶどう膜炎とHTLV-1関連脊髄症が悪化した1例,第1回日本HTLV-1学会学術集会,2014.08.22

[5]鴨居功樹,寺田裕紀子,宮田和典,望月學, HTLV-1ぶどう膜炎の臨床像,第1回日本HTLV-1学会学術集会,2014.08.22

[6]軽部央子,鴨居功樹,堀江真太郎,高瀬博,大野京子,望月學,アダリムマブ導入でベーチェット病のぶどう膜炎を抑制できた一例,第48回日本眼炎症学会,東京,2014.07.04

[7]福地麗,宮永将,高瀬博,鴨居功樹,横田眞子,赤尾信明,望月學,東京医科歯科大学における眼トキソカラ症の検討,第25回日本臨床寄生虫学会,2014.06.14

[8]鈴木さやか,鴨居功樹,高瀬博,大野京子,富澤大輔,Myeloid/NK cell precursor acute leukemiaの経過中に眼内浸潤がみられた1例,第118回日本眼科学会総会,東京,2014.04.02

松浦英治

[1]エクソーム解析によるHAM疾患感受性遺伝子の探索 Exome sequencing identifies novel rare variants in HAM/TSP 野妻智嗣,松浦英治,久保田龍二,児玉大介,松崎敏男,渡邊修,三井純,石浦浩之,高橋祐二,山野嘉久,森下真一,辻省次,出雲周二,高嶋博 2014年5月21日 第55回日本神経学会 福岡市

[2]過去10年間に当科に入院したHAM患者144人の筋力低下パターンの検討 松浦英治,野妻智嗣,松崎敏男,渡邊修,久保田龍二,出雲周二,高嶋博 2014年5月21日 第55回日本神経学会学術集会 福岡市(ポスター)

[3]HTLV-1関連脊髄症の疾患活動性と発症年齢の関係 - HAMは発症年齢が高いほど急速進行する - 松浦英治,大窪隆一,渡邊修,高嶋

博 2014年6月14日 第51回日本老年医学会 福岡市(口演)

[4]Clinical manifestation and disease course of the patient with HAM/TSP Eiji Matsuura, Satoshi Nozuma, Osamu Watanabe, Hiroshi Takashima 2014年7月10日 13th ICNMD, Nice, France(ポスター)

[5]次世代シーケンサーによるHAM疾患感受性遺伝子の探索 野妻智嗣,松浦英治,久保田龍二,児玉大介,松崎敏男,渡邊修,三井純,石浦浩之,高橋祐二,山野嘉久,森下真一,辻省次,出雲周二,高嶋博 2014年8月23日 第1回HTLV-1学会 東京都(口演)

[6]過去10年間に当科に入院した連続HAM患者の筋力低下パターン 松浦英治,野妻智嗣,松崎敏男,渡邊修,久保田龍二,出雲周二,高嶋博 2014年9月6日 第19回神経感染症学会学術集会 金沢市(口演)

平成27年度

岡山昭彦

[1]梅北邦彦,日高利彦,岡山昭彦. ヒトTリンパ向性ウイルス1型(HTLV-1)感染は関節リウマチの病態を修飾し生物学的製剤の治療抵抗性に関与する. 第112回日本内科学会総会・講演会. アレルギー・膠原病 167. 2015. (4月10日-12日(10日発表),京都府京都市,みやこめっせ)

[2]宮内俊一,梅北邦彦,岡山昭彦. リウマチ性疾患の診療におけるHTLV-1感染の意義に関する診療実態調査. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会. ポスターセッション PS2-21 リウマチ性疾患の合併症 2 P2-234. 2015. (4月23日-25日(24日発表),愛知県名古屋市,名古屋国際会館)

[3]倉光球,大隈和,矢持忠徳,山野嘉久,長谷川寛雄,上平憲,岡山昭彦,久保田龍二,出雲周二,成瀬功,相良康子,佐竹正博,渡邊俊樹,山口一成,浜口功. HTLV-1核酸検査の標準化および検出感度の検討:多施設共同研究. 第2回日本HTLV-1学会学術集会. Session 2 バイオマーカー O-10. 2015. (8月21日-23日(22日

発表), 東京都港区, 東京大学医科学研究所1号館講堂)

[4]鴨居功樹, 岡山昭彦, 大野京子. ATL 関連眼疾患に関する診療の現状: 全国アンケート調査結果. 第2回日本HTLV-1学会学術集会.

Session 6 HAM・関連疾患 O-30. 2015. (8月21日-23日(23日発表), 東京都港区, 東京大学医科学研究所1号館講堂)

[5]梅北邦彦, 宮内俊一, 野村創, 梅木一美, 久保和義, 松田基弘, 河野彩子, 岩尾浩昭, 小村真央, 楠元規生, 高城一郎, 長友安弘, 日高利彦, 岡山昭彦. HTLV-1感染による関節リウマチ病態の修飾機構の検討. 第2回日本HTLV-1学会学術集会. Session 6 HAM・関連疾患

O-31. 2015. (8月21日-23日(23日発表), 東京都港区, 東京大学医科学研究所講堂)

[6]福元拓郎, 池辺詠美, 緒方正男, 長谷川寛雄, 岡山昭彦, 田中勇悦, 伊波英克. 当講座で樹立したATL患者末梢血由来細胞株のFACS解析およびHTLV-1プロウイルスの挿入部位の特定とプロウイルスゲノム塩基配列の解読. 第2回日本HTLV-1学会学術集会. ポスター発表 P-23. 2015. (8月21日-23日(23日発表), 東京都港区, 東京大学医科学研究所1号館講堂)

[7]Umekita K, Miyauchi S, Kubo K, Umeki K, Nomura H, Mao Komura M, Iwao K, Takajo I, Nagatomo Y, Toshihiko Hidaka T, Okayama A. IL-6 May Have an Important Role in the Resistance to Anti-TNF Therapies of Human T-Lymphotropic Virus Type 1 (HTLV-1) Positive Rheumatoid Arthritis (RA) Patients; HTLV-1 Infected Cells Activate the Inflammatory Responses of RA Synovial Fibroblasts. 2015 ACR/ARHP Annual Meeting. ACR Poster Session A 544. 2015. (November 6-11(8 presentation), Moscone Center, San Francisco)

中村龍文

[1]中村龍文, 佐藤克也: MS/HAM 基礎 HAM の病態におけるCXCR4シグナル活性化の役割. 第

27回日本神経免疫学会学術集会, 2015年9月, 岐阜.

高嶋博

[1]HTLV-1陽性筋炎の臨床 松浦 英治:1 野妻 智嗣:1, 樋口 逸郎:1, 渡邊 修:1, 高嶋 博:1 第56回日本神経学会学術総会 平成27年5月20日 新潟

[2]Clinical study of ASIA after HPV vaccination: 10 cases with neurological symptom 岡田 敬史:1 高畑 克徳:1, 牧 美充:1, 吉村 道由:1, 荒田 仁:1, 東 桂子:1, 松浦 英治:1, 高嶋 博:1 第56回日本神経学会学術集会 新潟

[3]エクソーム関連解析によるHAM疾患感受性遺伝子の探索 野妻 智嗣:1 松浦 英治:1, 久保田 龍二:2, 児玉 大介:2, 松崎 敏男:2, 渡邊 修:1, 三井 純:3, 石浦 浩之:3, 山野 嘉久:4, 辻 省次:3, 出雲 周二:2, 高嶋 博:1 第56回日本神経学会学術総会 平成27年5月20日 新潟

[4]当科で経験した免疫介在性脳症についての臨床的検討 武井 潤:1 高畑 克徳:1, 安藤 匡宏:1, 田代 雄一:1, 牧 美充:1, 吉村 道由:1, 荒田 仁:1, 松浦 英治:1, 高嶋 博:1 第56回日本神経学会学術総会 平成27年5月20日 新潟

[5]当科における腓腹神経生検と神経伝導検査の検討 吉村 道由:1 高畑 克徳:1, 安藤 匡宏:1, 田代 雄一:1, 牧 美充:1, 中村 友紀:1, 荒田 仁:1, 松浦 英治:1, 高嶋 博:1 第56回日本神経学会学術総会 平成27年5月20日 新潟

[6]Analysis of the association between the sex and disease courses of 132 consequent patients with HTLV-1-associated myelopathy/Tropic spastic paraparesis (HAM/TSP), Matsuura Eiji, Nozuma Satoshi, Kubota Ryuji, Izumo Shuji, Takashima Hiroshi 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV & Related Viruses, Martinique (France) 6/18-21, 2015

[7]鹿児島県の炎症性筋疾患とHTLV-1感染および抗NT5C1A抗体の関係 松浦 英治, 野妻 智嗣, 樋口 逸郎, 渡邊 修, 出雲周二, 高嶋

博 平成 27 年 8 月 22 日 第 2 回 HTLV-1 学会
東京

[8]鹿児島県における炎症性筋疾患と HTLV-1
感染および抗 NT5C1A 抗体の関係について 松
浦 英治, 野妻 智嗣, 樋口 逸郎, 渡邊 修,
高嶋 博 第 27 回日本神経免疫学会学術集会
平成 27 年 9 月 16 日 岐阜市

[9]HTLV-1 感染封入体筋炎における抗
NT5C1A 抗体の検討 松浦 英治, 野妻 智嗣,
樋口 逸郎, 渡邊 修, 高嶋 博 第 20 回日本
神経感染症学会総会・学術大会 H27 年 10 月 23
日 長野市

久保田龍二

[1]久保田龍二、高嶋 博、出雲周二:マイクロア
レイ解析による HAM 末梢血 HTLV-1 感染細胞特
異的細胞表面分子の探索。第 56 回日本神経学
会学術大会。2015 年 5 月 新潟

[2]児玉大介、久保田龍二、松崎敏男、高嶋 博、
出雲周二:HAM 患者 CD4+T 細胞の小胞体スト
レスを介したツニカマイシン誘導性アポトーシス。
第 56 回日本神経学会学術大会。2015 年 5 月 新
潟

[3]野妻 智嗣、松浦 英治、久保田 龍二、児玉
大介、松崎 敏男、渡邊 修、三井 純、石浦 浩
之、山野 嘉久、辻 省次、出雲 周二、高嶋 博:
エクソーム関連解析による HAM 疾患感受性遺伝
子の探索。第 56 回日本神経学会学術大会。
2015 年 5 月 新潟

[4]久保田龍二、高嶋 博、田中勇悦、出雲周二:
HAM 患者末梢血中の HTLV-1 感染細胞特異的
細胞表面分子の探索。第 2 回日本 HTLV-1 学会
学術集会。2015 年 8 月、東京

[5]児玉大介、久保田龍二、松崎敏男、高嶋博、
出雲周二:HAM 患者の HTLV-1 感染細胞は小
胞体ストレスが付加されている。第 2 回日本
HTLV-1 学会学術集会。2015 年 8 月、東京

[6]久保田龍二、高嶋 博、出雲周二: HAM 患者
末梢血中 HTLV-1 感染細胞特異的細胞表面分

子の探索。第 27 回日本神経免疫学会学術集会。
2015 年 9 月、岐阜

山野嘉久

[1]Yamano Y. HTLV-1 induces a Th1-like state in
CD4+CCR4+ T cells that produces an
inflammatory positive feedback loop via astrocytes
in HAM/TSP. 40Years of Neuroimmunology,
19-20 April 2015, Bethesda, Maryland, USA.

[2]Yamano Y, Yamauchi J, Coler-Reilly A, Sato
T, Araya N, Yagishita N, Kunitomo Y, Takahashi
K, Tanaka Y, Akiyama H, Hasegawa Y,
Utsunomiya A. Humanized anti-CCR4 antibody
KW0761 targets HTLV-1-infected CD4+CCR4+
and CD8+CCR4+ T-cells to treat HAM/TSP. 17th
International Conference on Human Retrovirology:
HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015,
Trois-Ilets, Martinique, French West
Indies(FWI).[Carayou Hotel]

[3]Araya N, Sato T, Tomaru U, Coler-Reilly A,
Yagishita N, Yamauchi J, Hasegawa A, Kannagi
M, Akiyama H, Hasegawa Y, Takahashi K,
Kunitomo Y, Tanaka Y, Utsunomiya A, Jacobson
S, Yamano Y. HTLV-1 Tax induces Th1 master
regulator T-bet and thus IFN- γ in CD4+CCR4+
T-cells of virus-associated myelopathy patients.
17th International Conference on Human
Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21
June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West
Indies(FWI).[Carayou Hotel]

[4]Coler-Reilly A, Yagishita N, Sato T, Araya N,
Ishikawa M, Koike M, Saito Y, Suzuki H, Yamano
Y, Takata A. HAM-net national patient registration
system reveals details of how Japanese patients
with HTLV-1-associated myelopathy/tropical
spastic paraparesis progress over time. 17th
International Conference on Human Retrovirology:
HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015,
Trois-Ilets, Martinique, French West
Indies(FWI).[Carayou Hotel]

[5]Kimura M, Yamauchi J, Taisho H, Sato T, Yagishita N, Araya N, Sato K, Kikuchi T, Hasegawa Y, Chikaraishi T, Shibagaki Y, Yamano Y. Characteristics of HAM/TSP after kidney transplantation from HTLV-1 positive living donors. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]

[6]Sato K, Kikuchi T, Kimura M, Komita M, Shimada K, Seki K, Tachibana M, Yagishita N, Coler-Reilly A, Sato T, Arayta N, Ishikawa M, Koike M, Saito Y, Suzuki H, Takata A, Yamano Y. Patient Satisfaction Survey for HAM-net Registrants. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]

[7]Kikuchi T, Sawabe A, Negishi Y, Noda A, Hirai Y, Inoue E, Kimura M, Sato K, Araya N, Yagishita N, Sato T, Yamano Y. Evaluation of clinical outcome measures for HAM/TSP. 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 18-21 June 2015, Trois-Ilets, Martinique, French West Indies(FWI).[Carayou Hotel]

[8]Yamano Y. How does HTLV-1 cause CNS disease? - The importance of cross-talk between infected T-cells and astrocytes. The Inaugural Asia-Pacific School of Neuroimmunology Meeting (APSNI) (第一回アジア太平洋神経免疫学国際シンポジウム), 30 August 2015, Tokyo, Japan. [Sanjo Conference Hall at The University of Tokyo]

[9]山野嘉久, 山内淳司, 大勝秀樹, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 長谷川泰弘, 力石辰也, 柴垣有吾. HTLV-1 陽性ドナーからの生体腎移植による HAM の発症率と特徴. [High incidence of HAM after Kidney transplantation from HTLV-1 positive donors.], 第 56 回日本神

経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日~23 日, 新潟(新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]

[10]佐藤健太郎, 菊池崇之, 木村未祐奈, 込田みどり, 島田奏, 関来未, 橋茉莉花, 八木下尚子, 佐藤知雄, 新谷奈津美, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 鈴木弘子, 高田礼子, 山野嘉久. 患者レジストリへの介入方法と患者満足度の変化. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日~23 日, 新潟(新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]

[11]木村未祐奈, 佐藤健太郎, 菊池崇之, 八木下尚子, 新谷奈津美, 石川美穂, 小池美佳子, 齋藤祐美, 佐藤知雄, 鈴木弘子, 木村美也子, 高田礼子, 山野嘉久. HAM 患者レジストリ「HAM ねっと」を活用した経年的前向き調査. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日~23 日, 新潟(新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]

[12]沢辺愛加, 根岸由衣, 野田和里, 平井祐士, 井上永介, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄, 山野嘉久. 希少難病 HAM の臨床的有効性評価指標の検討. 第 56 回日本神経学会学術大会, 2015 年 5 月 20 日~23 日, 新潟(新潟市中央区) [朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター)]

[13]山内淳司, 柴垣有吾, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 山野嘉久, 力石辰也. HTLV-1 陽性ドナーからの生体腎移植によりレシピエントに発症する HAM の特徴. 第 60 回日本透析医学会学術集会・総会, 2015 年 6 月 26 日~28 日, 横浜(パシフィコ横浜)

[14]倉光球, 大隈和, 矢持忠徳, 山野嘉久, 長谷川寛雄, 上平憲, 岡山昭彦, 久保田龍二, 出雲周二, 成瀬功, 相良康子, 佐竹正博, 渡邊俊樹, 山口一成, 浜口功. HTLV-1 核酸検査の標準化および検出感度の検討: 多施設共同研究. 第 2 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日~23 日, 東京都(港区) [東京大学医科学研究所].

[15]石原誠人, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 藤井理沙, 最知直美, 宇都宮與, 山野嘉久, 植田幸嗣. 末梢血 CD4 陽性 T 細胞を用いた膜プロテオーム解析による HTLV-1 関連疾患に対する新規治療標的の探索. 第 2 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)(東京大学医科学研究所).

[16]山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 大勝秀樹, 長谷川泰弘, 力石辰也, 柴垣有吾, 湯沢賢治, 山野嘉久. HTLV-1 陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植による HAM の特徴. 第 2 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)(東京大学医科学研究所).

[17]佐藤知雄, 安藤仁, 高橋克典, 國友康夫, Ariella Coler-Reilly, 新谷奈津美, 八木下尚子, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症(HAM)における髄液細胞のケモカイン受容体解析. 第 2 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)(東京大学医科学研究所).

[18]鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齊藤祐美, 八木下尚子, 山野嘉久. HAM 患者の思いを知る ~ SEIQoL-DW (個人の生活の質評価法) を用いた関わりを通して ~. 第 2 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)(東京大学医科学研究所). [ポスター]

[19]八木下尚子, 鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齊藤祐美, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 高田礼子, 山野嘉久. HAM 患者レジストリ「HAM ねっと」の経年的患者満足度調査. 第 2 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日 ~ 23 日, 東京都(港区)(東京大学医科学研究所). [ポスター]

[20]夢田まや子, 佐々木光穂, 平田誠, 樋野村亜希子, 坂手龍一, 西下直希, 山野嘉久, 吉良潤一, 小原有弘, 松山晃文. 難病バンクにおける HLA タイピング導入による難病研究推進. 第 24 回日本組織適合性学会, 2015 年 9 月 10 日 ~ 12 日, 茨城(水戸市)(ホテル レイクビュー水戸)

[21]山野嘉久. 希少難病 HAM 患者レジストリ「HAM ねっと」の臨床研究・治療への応用 ~ 運営事務局の立場から ~. 第 15 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2015 in KOBE. 2015 年 9 月 12 日, 兵庫(神戸市中央区)(神戸国際会議場)

[22]山野嘉久. HAM の治療展望. 第 27 回日本神経免疫学会学術集会, 2015 年 9 月 15 ~ 16 日, 岐阜(岐阜市)(長良川国際会議場)

[23]山野嘉久. 臓器移植後に伴う HTLV-1 関連疾患発症の実態について. 第 9 回 HTLV-1 対策推進協議会, 2015 年 9 月 30 日, 東京(東京都千代田区)(厚生労働省)

[24]山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症(HAM)に対する抗 CCR4 抗体療法の開発. 第 43 回日本臨床免疫学会総会, 2015 年 10 月 22 日 ~ 24 日, 兵庫(神戸市中央区)(神戸国際会議場)

[25]山野嘉久. HAM に対する日本発の革新的治療となる抗 CCR4 抗体の実用化研究. 革新的医療技術創出拠点プロジェクト統合戦略会議, 2015 年 11 月 10 日, 東京(東京都千代田区)(日本医療研究開発機構)

[26]山野嘉久, 山内淳司, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 大勝秀樹, 長谷川泰弘, 湯沢賢治. HTLV-1 陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植による HAM の特徴. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成 27 年度合同班会議, 2016 年 1 月 21 日, 東京(東京都千代田区)(都市センターホテル)

[27]佐藤知雄, 新谷奈津美, 八木下尚子, 山野嘉久. HAM の進行度の特徴と関連バイオマーカーの検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成 27 年度合同班会議, 2016 年 1 月 21 日, 東京(東京都千代田区)(都市センターホテル)

[28]玉木慶子, 津川潤, 佐藤知雄, 山野嘉久, 坪井義夫. HAM における治療効果を予想するバイオマーカーの検討. 厚生労働省難治性疾患(神経免疫疾患)政策および実用化研究班平成 27

年度合同班会議, 2016年1月21日, 東京(東京都千代田区)(都市センターホテル)

藤田次郎

- [1]鍋谷大二郎、原永修作、橋岡寛恵、上 若生、柴原大典、狩俣洋介、上原綾子、金城武士、比嘉 太、健山正男、藤田次郎:重症糞線虫症における胸部画像所見の検討第 55 回日本呼吸器学会学術講演会(2015年4月、千代田区、東京都)
- [2]東新川実和、田中照久、平田哲生、外間 昭、名嘉栄勝、藤田次郎:糞線虫症患者の駆虫前後での症状と検査結果の比較検討. 第 26 回日本臨床寄生虫学会大会(2015年6月、宇都宮市、栃木県)
- [3]田中照久、古賀絵莉香、山田圭介、武島翔、藤田 茜、川満美和、大石有衣子、大平哲也、星野訓一、圓若修一、海田正俊、田村次朗、高木 亮、與儀竜治、新垣伸吾、東新川実和、金城 徹、前城達次、平田哲生、金城 渚、外間 昭、藤田次郎、新垣 哲、金城福則:糞線虫の駆虫にて内視鏡の所見の改善が得られた 2 例. 第 23 回日本大腸検査学会九州支部例会.(2015年8月、宮崎市、宮崎県)

川上純

- [1]中村英樹, 清水俊匡, 高木幸則, 高橋良子, 竇來吉朗, 中島好一, 佐藤俊太郎, 白石裕一, 中村龍文, 福岡順也, 中村 卓, 川上 純. 抗 HTLV- 抗体陽性シェーグレン症候群の臨床症状再評価. 第 24 回日本シェーグレン症候群学会学術集会. 2015/9/18-19.
- [2]中村英樹, 川上 純. シェーグレン症候群における HTLV- 感染と免疫異常. 第 43 回日本臨床免疫学会. 2015/10/22-24

鴨居功樹

- [1]高橋 洋如, 高瀬 博, 新井 文子, 寺田 裕紀子, 鴨居 功樹, 望月 學, 大野 京子. 両眼性肉芽腫性汎ぶどう膜炎像を呈した EB ウイルス陽性

T リンパ増殖症の 2 例. 第 65 回日本臨床眼科学会 2015.10.23

- [2]今井 彩乃, 高瀬 博, 松田 剛, 今留 謙一, 鴨居 功樹, 望月 學, 大野 京子, 新井 文子. 脳病変より節外性 NK/T 細胞リンパ腫と確定診断された EB ウイルス陽性ぶどう膜炎の 1 例. 第 49 回日本眼炎症学会 2015.07.11
- [3]Koji Kamoi, Zhaorong Guo, Shintaro Horie, Kyoko Ohno-Matsui. The role of HTLV-1 infected RPE cells in the pathogenesis of HTLV-1 uveitis. ARVO Annual Meeting 2015.05.05 Denver
- [4]Shintaro Horie, Koji Kamoi, Zhaorong Guo, Kyoko Ohno-Matsui. Character of PMA-Stimulated THP-1 Cells under Ocular Diabetic Condition. ARVO Annual Meeting 2015.05.05 Denver
- [5]鴨居 功樹, 郭 墨蓉, 堀江 真太郎, 大野京子. HTLV-1 ぶどう膜炎の発症における網膜色素上皮細胞への HTLV-1 感染の関与. 第 119 回日本眼科学会総会 2015.04.17 札幌
- [6]井出 光広, 鴨居 功樹, 望月 學, 大野 京子. 東京における HTLV-1 ぶどう膜炎の臨床的特徴. 第 119 回日本眼科学会総会 2015.04.16 東京

中尾久美子

- [1] 第 69 回日本臨床眼科学会 中尾久美子, 精松徳子, 坂本泰二 HTLV-1 関連ぶどう膜炎の全身予後 H27年10月22~25日名古屋国際会議場

松浦英治

- [1]HTLV-1 陽性筋炎の臨床 松浦 英治:1 野妻智嗣:1, 樋口 逸郎:1, 渡邊 修:1, 高嶋 博:1 第 56 回日本神経学会学術総会 平成 27 年 5 月 20 日 新潟
- [2]Clinical study of ASIA after HPV vaccination: 10 cases with neurological symptom 岡田 敬史:1 高畑 克徳:1, 牧 美充:1, 吉村 道由:1, 荒田 仁

:1, 東 桂子:1, 松浦 英治:1, 高嶋 博:1 第 56 回日本神経学会学術集会 新潟

[3]エクソーム関連解析によるHAM疾患感受性遺伝子の探索 野妻 智嗣:1 松浦 英治:1, 久保田 龍二:2, 児玉 大介:2, 松崎 敏男:2, 渡邊 修:1, 三井 純:3, 石浦 浩之:3, 山野 嘉久:4, 辻 省次:3, 出雲 周二:2, 高嶋 博:1 第 56 回日本神経学会学術総会 平成 27 年 5 月 20 日 新潟

[4]当科で経験した免疫介在性脳症についての臨床的検討 武井 潤:1 高畑 克徳:1, 安藤 匡宏:1, 田代 雄一:1, 牧 美充:1, 吉村 道由:1, 荒田 仁:1, 松浦 英治:1, 高嶋 博:1 第 56 回日本神経学会学術総会 平成 27 年 5 月 20 日 新潟

[5]当科における腓腹神経生検と神経伝導検査の検討 吉村 道由:1 高畑 克徳:1, 安藤 匡宏:1, 田代 雄一:1, 牧 美充:1, 中村 友紀:1, 荒田 仁:1, 松浦 英治:1, 高嶋 博:1 第 56 回日本神経学会学術総会 平成 27 年 5 月 20 日 新潟

[6]Analysis of the association between the sex and disease courses of 132 consequent patients with HTLV-1-associated myelopathy/Tropic spastic paraparesis (HAM/TSP), Matsuura Eiji, Nozuma Satoshi, Kubota Ryuji, Izumo Shuji, Takashima Hiroshi 17th International Conference on Human Retrovirology: HTLV & Related Viruses, Martinique (France) 6/18-21,2015

[7]鹿児島県の炎症性筋疾患とHTLV-1感染および抗NT5C1A抗体の関係 松浦 英治, 野妻 智嗣, 樋口 逸郎, 渡邊 修, 出雲周二, 高嶋 博 平成 27 年 8 月 22 日 第 2 回 HTLV-1 学会 東京

[8]鹿児島県における炎症性筋疾患とHTLV-1感染および抗NT5C1A抗体の関係について 松浦 英治, 野妻 智嗣, 樋口 逸郎, 渡邊 修, 高嶋 博 第 27 回日本神経免疫学会学術集会 平成 27 年 9 月 16 日 岐阜市

[9]HTLV-1 感染封入体筋炎における抗NT5C1A抗体の検討 松浦 英治, 野妻 智嗣, 樋口 逸郎, 渡邊 修, 高嶋 博 第 20 回日本

神経感染症学会総会・学術大会 H27 年 10 月 23 日 長野市

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許出願予定

平成 26 年度

中村龍文

[1]HTLV-I 関連脊髄症の予防または治療剤 特許出願中、(日本)特願 2013-538578、(米国) 14/351,242、(欧州)12840392.0.

[2]排尿障害の予防・治療剤(特許出願中、特願 2011-269262、PCT/JP2012/067984)。

山野嘉久

[1]特願 2014-226719、発明者:植田幸嗣, 石原 誠人, 山野嘉久, 出願年月日:2014 年 11 月 7 日、ヒト T リンパ好性ウイルス-1 (HTLV-1)関連脊髄症(HAM/TSP)の検査方法、及び検査用キット

[2]特願 2014-209669、発明者:山野嘉久、清野研 一郎、武藤真人、出願年月日:2014 年 10 月 14 日、T 細胞の製造方法および医薬

[3]特許取得:特許番号:第 5552630 号、登録日:2014 年 6 月 6 日、出願番号:特願 2008-274514、

[4]発明者:山野嘉久、新谷奈津美、出願年月日:2008 年 10 月 24 日、HTLV-I 関連脊髄症を治療または予防するための医薬、および HTLV-I 関連脊髄症の患者に対する抗体療法の効果を試験する方法

平成 27 年度

中村龍文

[1]HTLV-I 関連脊髄症の予防または治療剤 特許出願中、(日本)特願 2013-538578、(米国) 14/351,242、(欧州)12840392.0.

[2]排尿障害の予防・治療剤(特許出願中、特願 2011-269262、PCT/JP2012/067984)

2. 実用新案登録

なし

3. その他
なし